

2019年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名(英)	研究ゼミナールB (Seminar of Study B)		
ナンバリングコード	P31702	大分類 / 難易度 科目分野	情報メディア学科 専門科目 / 応用レベル ゼミナール
単位数	2	配当学年 / 開講期	3 / 後期
必修・選択区分	必修		
授業コード	P170252	クラス名	濱田研究室
担当教員名	濱田 大助		
履修上の注意、 履修条件	当該科目的開講年度までに履修すべき科目を履修していることが望ましい。日本語を使用し情報システムに関する内容の講義であることから、国内における事例を理解できるようにしておくこと。講義中の電子辞書(スマートフォンは不可)の使用は許可するが、予習の時点で解決しておくことを推奨する。基本的なPCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)とWebによる情報収集、メールソフトの操作ができること。他人の学習意欲を減少させると思われる行為は学生・SAなどの報告により評価(減点)対象とする。		
教科書	大学生のためのレポート・論文術 小笠原 喜康(著)、その他 都度指示		
参考文献及び指定図書			
関連科目	オフィスアワー		

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試験・中間確認等)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (発表・その他)
【関心・意欲・態度】	テーマに沿ったコミュニケーションを自ら行う事ができる。スケジュール管理ができる。			10点
【知識・理解】	テーマに沿った事前学習や演習が行われ、十分理解の上ガイド無しに再現する事ができる。自己の理解度を把握し反省・改善のための方策と行動がとれる		40点	
【技能・表現・コミュニケーション】	必要な情報を手に入れ、演習・検証に用いる事ができる。また、その経緯と記録をレポートとして正確に残し提出する事ができる		30点	
【思考・判断・創造】	大局の理解のみでなく、詳細を理解するための分類する事ができる。類似や差異を把握し、新たなる発想・創造ができる			20点

○到達目標に対する到達度の目安、および、成績評価の補足

かならず提出期限内に提出してください(期限を過ぎて提出された場合は減点します)。達成水準の目安は以下の通りです。

「Sレベル」単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

「Aレベル」単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

「Bレベル」単位を修得する達成すべき到達目標をかなり満たしている。

【Cレベル】単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

15回分の講義に対する姿勢を評価します。

○備考欄

■課題について

課題はWEBアプリにて収集します。提出した課題は手元に残るため復習に役立ててください。予習・復習は、指定した資料の下読み・理解を要します。課題は講義中および復習時などに提出するものとする。提出および再提出(再送信)の期限は次回講義の前日正午までとする。欠席した講義の課題については提出できない。ただし欠席届けにより当該欠席を補填される事がある場合はその限りではない。就職に関連した集合しての取り組みについては、別途指示(提出先、締切など)をだします。

■出席・欠席等について

出席・欠席の管理は情報システムを用いて行います。出席は始業ベルから15分以内までの入力に対して認定します。15分以降は遅刻30分以降の登録または未入力は欠席とします。途中退出は体調不良・就職活動の緊急連絡などに限り、特段のことわり無く許可します。途中退出が30分以上継続する場合は、早退とします。公共交通機関の運行遅延は、その証明として各会社より発行される”遅延証明”を取得し、提示したときにのみ遅刻を取り消す。本学の大学バスの遅延・運休については、その事実が発生したときに電子メールにより遅延なく報告をすること。報告の遅れや無報告については、救済措置の検討を行わない。

■座席・教科書・水分補給について

座席は自由とする(使用する教室が変更する事があります)。PCの不調や学生の申し出などにより期の途中で変更する事がある。授業資料はプリントを中心に配布する。講義中に説明用に使用するプリントはWEBシステム内で開示している。欠席により配布を受けなかった場合、希望すれば次回以降の出席時に配付する。プリントは、下部にページ番号を振り綴じるための穴をサイドに設ける。最終的におおむね40ページ程度になるため、バインダー等を用意し綴じておくように。PC教室であるため飲食は禁止とする。ただし、健康障害や重大な事故の大きなリスク要因を除去するための厚生労働省が推進する「健康のため水を飲もう」に沿う水分摂取は可とします。

■テストについて

テストは実施しない。評価は、レポートおよび都度提示する課題を主とする。

■ 実務経験

(1998年～2000年)鹿児島ケーブルテレビ放送株式会社に勤務。社内機器および貸与機器の運用管理、制作業務および送出業務に従事。第一種電気通信事業者の認可申請業務にあたる(当時の郵政省)。インターネットプロバイダ事業に用いる機器および、放送送出機器の運営を主業務とする。SNMPで管理されるMACをデータベースを構築し管理した。併せて自社および他社のWEBサイトの構築に従事。

(2000年 - 2006年)日本文理大学NBUメディアセンターに勤務。学内LAN、インターネットサーバの運用管理・開発、および工学部情報メディア学科技術員として運用管理に従事。多種業務をデータベースシステムに移管し業務の効率化を図った。

2019年度 授業シラバスの詳細内容

<p>○授業計画</p> <p>科 目 名 : 研究ゼミナールB (Seminar of Study B) 担当教員 : 濱田 大助</p> <p>授業コード:P170252</p> <p>学修内容</p> <p>1. テーマ 正しい日本語、理解してもらえる日本語 について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>2. テーマ Unix,Linux について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>3. テー�ma 地域の情報産業 について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>4. テー�ma 地域の情報産業 について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>5. テー�ma 地域の情報産業 について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>6. テー�ma 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>7. テー�ma 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>8. テー�ma 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p>	<p>○授業計画</p> <p>科 目 名 : 研究ゼミナールB (Seminar of Study B) 担当教員 : 濱田 大助</p> <p>授業コード:P170252</p> <p>学修内容</p> <p>9. テーマ 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>10. テーマ 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>11. テーマ 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>12. テーマ 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>13. テーマ 卒業研究に向けて について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>14. テーマ レポート について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>15. テーマ レポート について取り組みます</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p> <p>16.</p> <p>予習: (約2.0h) 復習: (約2.0h)</p>
--	--